



栽培地	茨城県
地域	潮来市
生産者	JAなめかた(大規模稲作研究会 基幹作物経営安定推進プロジェクトチーム(なめかた米 産地づくり班))
品種	一番星
品種の育成	育成年:平成23年 育成場所:茨城県農業総合センター
品種の来歴	母(めしべ):ふさおとめ 父(おしべ):愛知101号
栽培内容	節減対象農薬:5割減 化学肥料(窒素成分):5割減
栽培履歴	産地保管

あきたこまちより早期に収穫可能で、極早生品種として茨城県の早場米地帯に適応可能であり、早期出荷と大粒で良質米の生産が可能となる品種です。

「一番星」は、同熟期の「あきたこまち」と比較して、以下の特徴があります。

1. 出穂期は同じで成熟期は2日程度早い。
2. 稈長は短く倒れにくい。
穂ぞろいが良く作りやすい。
3. 収量は同等。
4. 玄米千粒重は1.5g程度重い。
粒揃いが良く白未熟粒の発生が少ない。
「あきたこまち」の検査等級が低下した高温年でも
検査等級は1等で、上位等級を安定して確保できる。
5. 炊飯米は粘りがあり柔らかく
「あきたこまち」と同じくおいしい。
6. いもち病抵抗性は同程度。穂発芽しにくく
冷害や高温にも強い。



栽培上の留意点としては

- ・極早生のためカメムシ類が集中しやすいので必ず適期防除を行う。
- ・短稈で食味・品質が良好な品種ですが、施肥法は「あきたこまち」に準じて、中干し・適期落水など高品質米生産に努める。等があります。

食味は、比較的サッパリとしていて、冷めても美味しさはあまり変わりません。
米粒は大粒で、おにぎり、お弁当などにも合います。